

種員作
國貞画

乃 是 語

再板

柳下

文庫

十一編下



13
1178
22

縫



拾華寺鐘樓堂建立

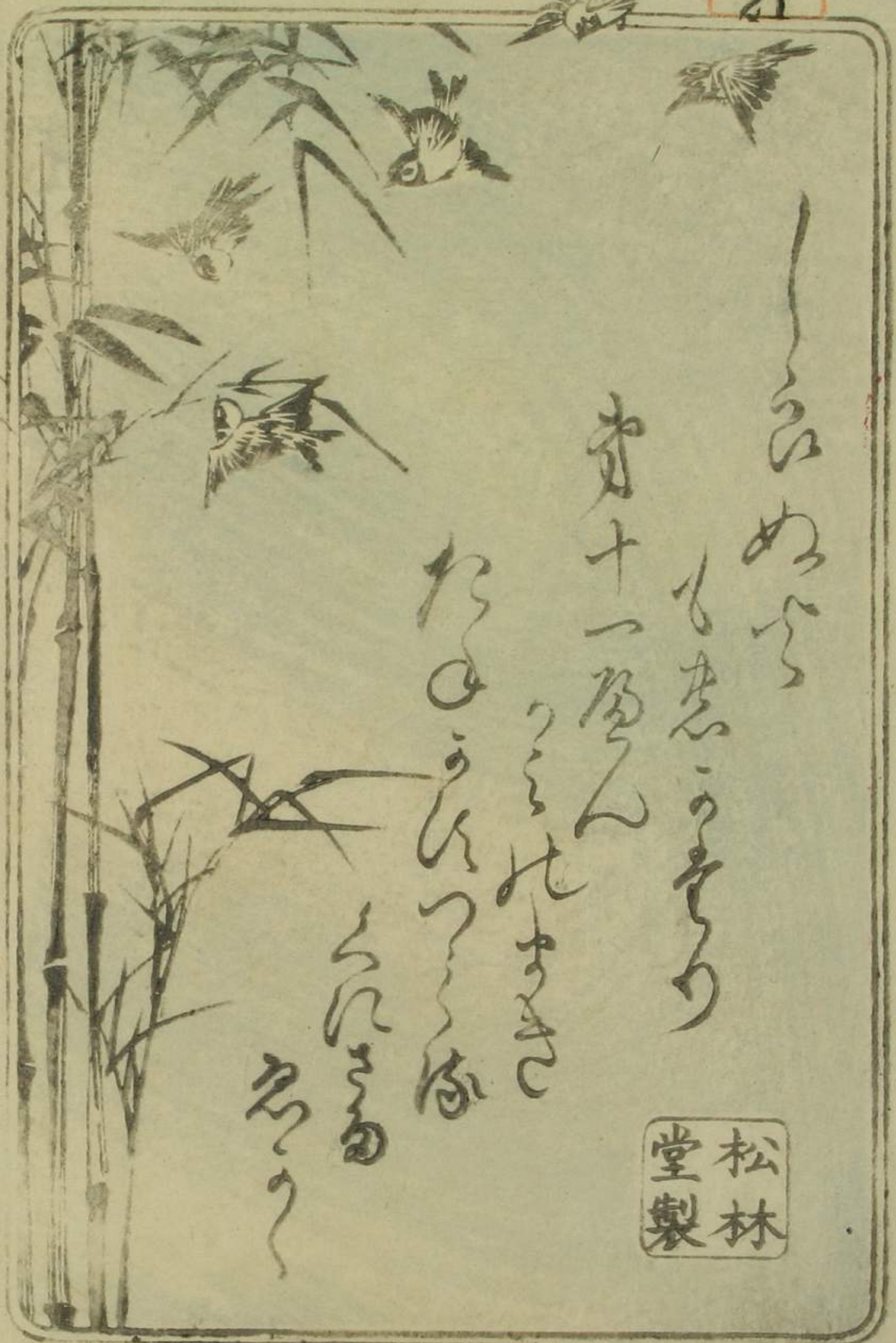
13
1178
21





13
1178
21

松林堂製



一ふぬさ
も志のそり
宵十一乃ん
たのふんつゝ家
くわさる
多う

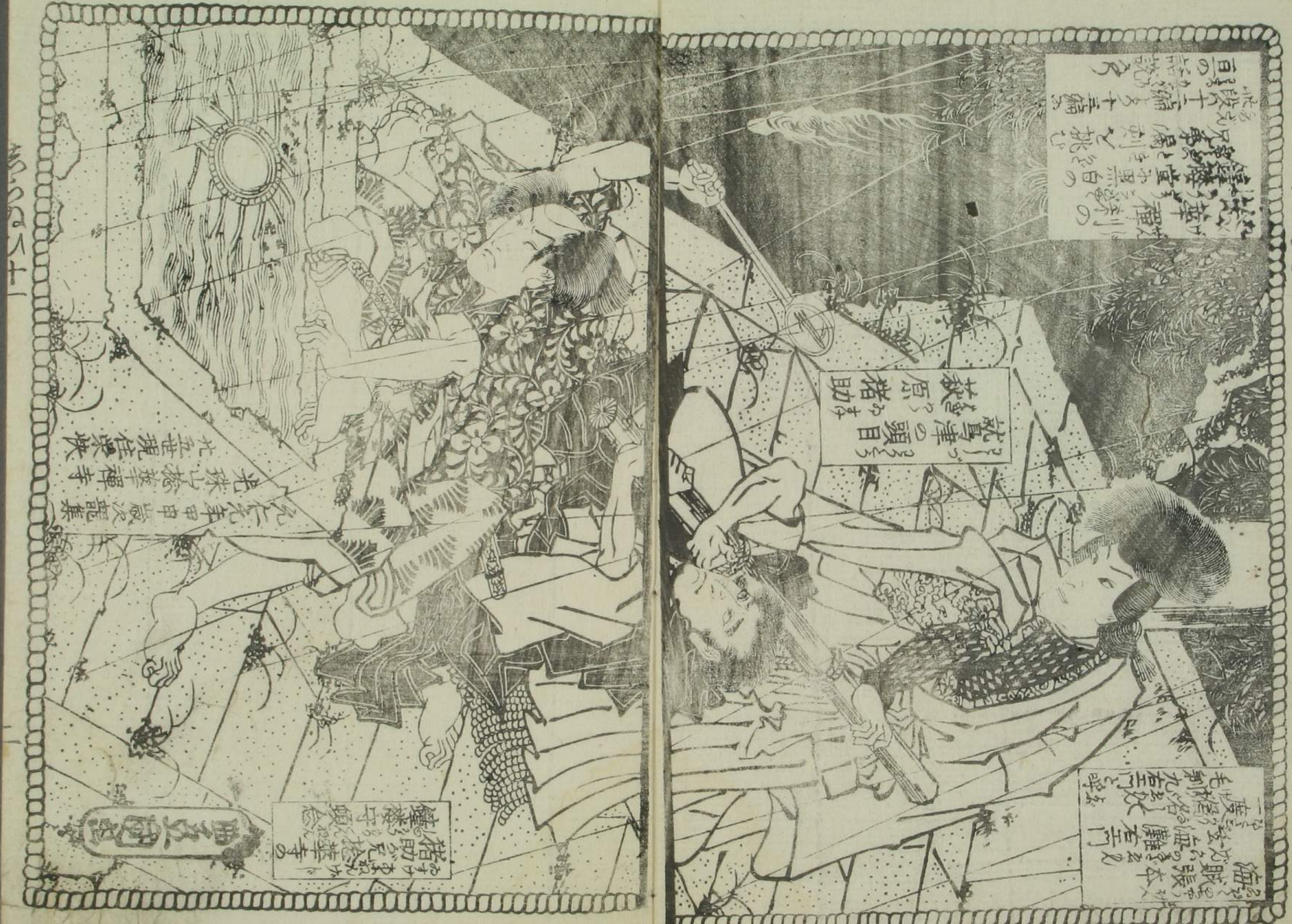


嘉永癸
丑孟陽

柳下亭種員記



楊寶ふ王環と與へ正直爺ふ葛籠を送るの倭漢髪髯雀が
恩お報へ話巻中のある物語も農夫が餌飼へ瓦雀の約め
九死を免る一生を保へ其本據の續醫説ふ誤吞金銀銅
鉄入腹者韭菜熟而不斷咽之不過二次從穀道出といつると外ふ
今一固或人昔談として言ふ告へ雀の奇事を種とせられん
序文の僅轉舌切雀御宅の何所ふ在とも看官の佳童
連此編の發敗あつた必近邊の稗史舖の賈得御覽と
此翼と言ふ則稗官中ふまごの黄口の贅あり



此段十編と十編の
 兄弟属刺之挑心
 鐘樓堂亦聖白の
 禪利の
 百の語也

就島津の頭目
 萩原格助

海賊張本
 海難有門
 毛刺九右門之呼

光珠山捨婆禪寺
 九世現住樂峽

格助兄弟捨婆寺の
 鐘樓守願念

西三回

五十一



あつひの
た

あつひの
た
あつひの
た
あつひの
た
あつひの
た

あつひの
た
あつひの
た
あつひの
た
あつひの
た

あつひの
た
あつひの
た
あつひの
た
あつひの
た



あつひの
た
あつひの
た
あつひの
た
あつひの
た

あつひの
た
あつひの
た
あつひの
た
あつひの
た

あつひの
た
あつひの
た
あつひの
た
あつひの
た





あはれなる甘利をまたも
りかひくらま子らこわら
おかし平なまふさのこ
にまのたのの、ま
よろるるくく

あはれなる甘利をまたも
りかひくらま子らこわら
おかし平なまふさのこ
にまのたのの、ま
よろるるくく

あはれなる甘利をまたも
りかひくらま子らこわら
おかし平なまふさのこ
にまのたのの、ま
よろるるくく

あはれなる甘利をまたも
りかひくらま子らこわら
おかし平なまふさのこ
にまのたのの、ま
よろるるくく



あはれなる甘利をまたも
りかひくらま子らこわら
おかし平なまふさのこ
にまのたのの、ま
よろるるくく





種員作國貞画

此人物の語解ハ
次の巻に在る

志しぬひ禪

五拾四編の柳 早種彦作
六編にて一惠齋芳幾重

両面織花田物語

初編ヨリ 同
五編迄 同
近 作

假名續八丈傳

三編の假名垣魯文録
三五編の朝霞樓芳幾重

古今 能優 似顔大全

故豊國公羽筆
大錦 白三番續

太平記英勇傳

中 錦山々亭有人記
百番續 惠齋芳幾重



種員作
國貞画

花乃語

再板

柳下

文庫

十一編下



~13
1178
22



種
員
作

國
貞
畫

白

縫

譚

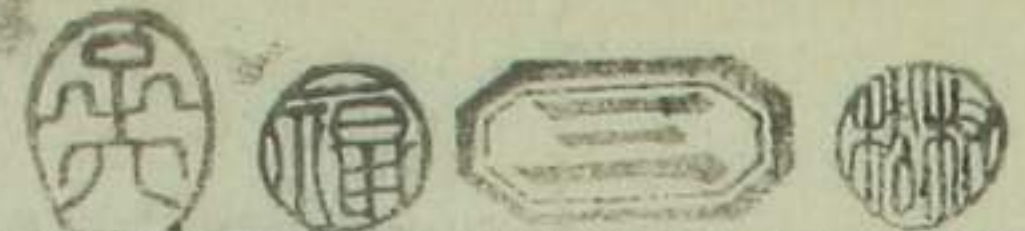
十

編

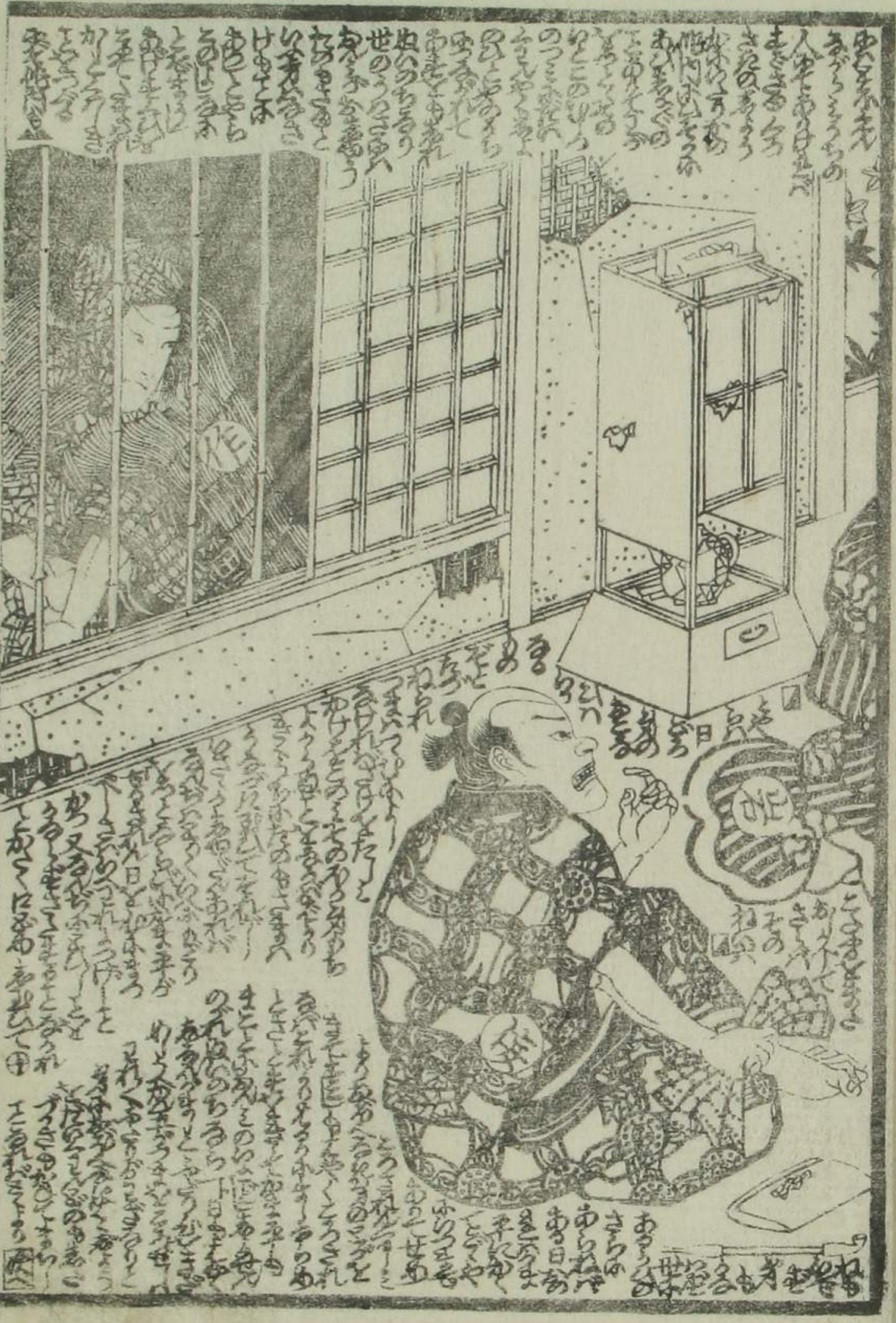
冊

下

藤
慶









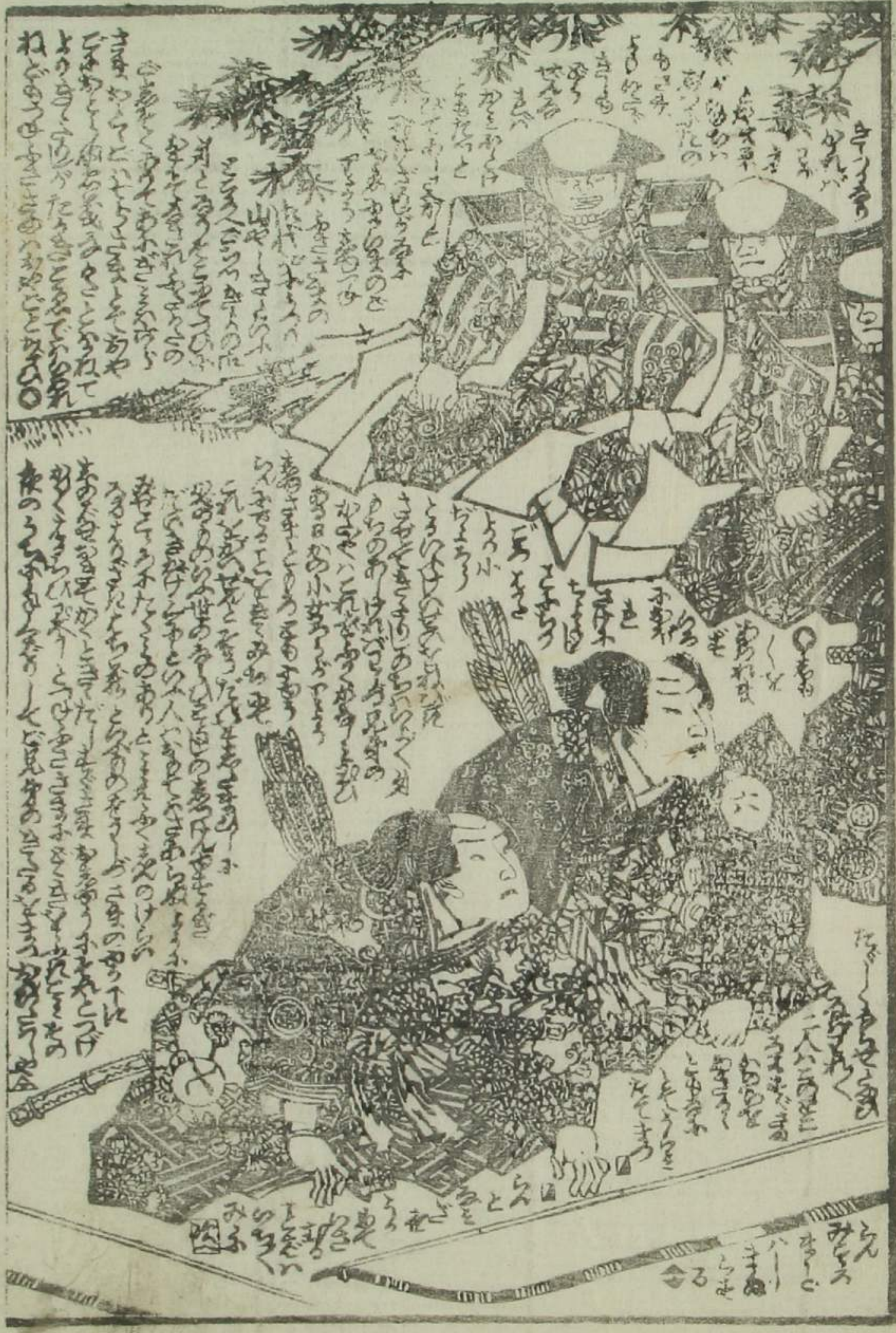


五〇八十一

十五



十四











種員作國貞画

名譽の義殿ハ
 神木金輔
 名譽の孝女ハ
 桂三於市

浪輝黄金鯢

三編讀切

朝霞楼芳幾画
 一対男の縁小因て戯作劇場の二様小竹林ある七軒人が一回五葉の持さりの
 合作全備の三編冊 初編 初編 初編 其水作同 十 十 十 有人作同 十 十 十 交來作
 同 十 十 十 如皇作 二編 十 十 十 魯文作同 十 十 十 其水作同 十 十 十 有人
 三編 初編 初編 初編 方魚作同 十 十 十 如皇同 十 十 十 魚文同 十 十 十 其水作同 十 十 十 有人
 定ぬ一豆の筆カをほくし写當藏板のあがぬ以同様御高評の布ふ

地草紙四巻

江戸海門依實所
 廣園盛幸助梓

